

(様式1)

平成30年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 037	提案機関名 農業技術センター普及指導部
<b>要望問題名</b> 赤土主体による安価で作業性および排水性の良い培土の配合の検討	
<b>要望問題の内容</b> 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 本県における花き苗生産は花卉生産の中核を占めている。販売価格は頭打ちであるため利益を確保するため、それぞれの農場は生産規模を拡大しており、雇用労力を導入して栽培管理を行っている。このような栽培管理形態では、俗に「水やり3年」と言われる、高度な灌水管理を望むことは困難な状況となっている。そのため、いつまでも湿潤状態となる保水性が高い培土より、多く灌水してしまっても悪影響が少ない排水性の良い培土が好まれている。 そこで、入手しやすく比較的安価な赤土を主体としながら、樹皮堆肥やココピート等の資材を混合し、排水性が良く、安価であり、ポットニングマシンでも詰めやすいように粒形の揃った培土の配合を検討願いたい。 なお、当然のことながら生育途中に化学性が大きく変化（窒素の収奪や分解による窒素の過剰供給が起こらない）しないことが必要である。 県内全域	
<b>解決希望年限</b>	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内      ③4～5年以内      ④5～10年以内
<b>対応を希望する研究機関名</b>	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター    ②畜産技術センター    ③水産技術センター    ④自然環境保全センター
<b>備考</b>	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

<b>回答機関名</b>	農業技術センター	<b>担当部所</b>	生産環境部 土壌環境研究課
<b>対応区分</b>	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中    ③継続検討    ④実施済    ⑤調査指導対応    ⑥現地対応    ⑦実施不可		
<b>試験研究課題名</b>	(①、②、④の場合) 未利用有機質資源を有効活用するための技術開発 堆肥等有機質資源の有効活用技術の開発 土壌物理性改善効果を期待する堆肥の開発と有効利用法の確立		
<b>対応の内容等</b>	花卉鉢物用培土の配合については、平成28年度より上記課題の中で取り組んでおります。赤土に配合する資材についていろいろ検討しておりますが、有望な資材が見つからないのが現状です。ご提案の樹皮堆肥やココピート等についても検討をすすめてまいります。さらに有望な資材等がありましたら、情報提供等ご協力をお願いします。		
<b>解決予定年限</b>	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内      ③4～5年以内      ④5～10年以内		
<b>備考</b>			